

Sponsor

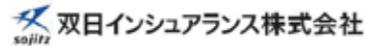
Gold Sponsor



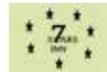
MAI
(Mutual Service Aid Guarantee Insurance Corporation)



Bronze Sponsor



Partner Sponsor



FSM CIC Leadership

Directors of FSM Captive Insurance Council (in alphabetical order)

Joanne Arizumi
(of First Hawaiian Bank)

Yasuyuki Fujishima
(of MAI)

leske Iehsi
(of MIMC)

Koji Kamei
(of AIG)

Shinichi Kandatsu
(of Aon Japan)

Kazuhiko Kawasaki
(of Sojitz Reinsurance)

Kembo Mida
(of Ramp & Mida Law Firm)

Jim Moonier
(of MRA)

Ken Motoda
(of Allianz Japan)

Ross Murakami
(of KMH CPAs)

Atsushi Nakamoto
(of InterRisk)

Tony Schmidt
(of Pacific Solutions)

Eiji Tajima
(of Marsh Japan)

Kazunori Takei
(of Sapphire MCC)

Collin Teraoka
(of First Insurance)

Fumio Uesugi
(of Willis)

Ken Yoshizaki
(of Blue Ocean)

Captive Insurance Seminar 2017

October
23, 2017

Tokyo,
Japan

Conference Program



For more information about CIC please contact:

Sumie Kiyama
info@fsmcaptive.fm
P.O. Box 902, Kolonia, Pohnpei, FM 96941

FSM
Captive Insurance Council
P.O. Box 902, Kolonia, Pohnpei, FM 96941

ご参加の皆様へ

現代の社会経済構造に鑑みますと、様々な変化が生じしており、特に今年のダボス会議において示されたグローバルリスク報告書の「リスク相互関連性のマップ2017」から単独のリスクに焦点を当てた組織経営には限界があることが理解できます。経済・環境・社会・地政学・テクノロジーが複雑に関わっていることを深く認識できなければ対応できない時代にきているといえます。ICT関連の諸機能の進化はビッグデータ、FinTech、InsTech、さらにサイバーテロ関連リスクなどに関わり、新たな取り組みが求められています。しかも、様々なリスクは究極的に金融の世界に押し掛かっています。したがって、保険リスクの見方、取り組み姿勢、すなわちリスクマネジメントのフレームワークの実践に当然のことながら関係します。



こうしたリスク環境に対応するリスクを考える場合、現在では、国内市場のみならず国外の立地の場(Captive Domiciles)に金融機能の対応拠点を設けることも繋がってきます。その背景には、金融行政の変化、国内・国外の保険市場環境の変化が生じているからといえます。

今回のプログラムでは、少なくともリスク対応上、「キャプティブ」活用の認識、サイバーリスク対応、さらには組織の持続可能性に目を向けることの重要性が確認できると思います。こうした機会を十分に享受していただけることを祈念して、ご挨拶とさせていただきます。

2017年10月23日 森宮 康
明治大学名誉教授

本日は、第9回マイクロネシア連邦キャプティブ保険セミナーにお越しいただき、誠に有難うございます。皆様の多大なるご理解とご支援に対し、ジム・ムーニエ会長ならびに私より心から厚く御礼申し上げます。



当セミナーには、マイクロネシア連邦政府の方々にもご列席をいただいております。キャプティブに関連する各分野の専門家の方々のご協力を得て、グローバル保険マーケットの最新情報をお伝えいたします。

セミナー終了後は、レセプションのご用意もございますので、皆様の情報交換の場としてご利用いただけましたら幸いです。今後もジム・ムーニエ会長と協力しながらマイクロネシア連邦と日本とのつながりを、より一層強固にしていくために尽力していきたいと考えています。

最後にセミナー開催にご尽力頂きましたCICメンバー、スポンサー、MRA社スティーブン・K・ベイクー社長及び関係各位の皆様方に厚く御礼申し上げます。

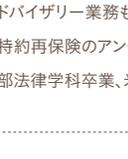
2017年10月23日 藤島 安之
マイクロネシア連邦キャプティブ保険協会 理事長

	Jun Bacalando ジュン バカランド	マイクロネシア連邦司法省 司法長官補佐
法律部門の責任者。マイクロネシア連邦とフィリピンにて15年間弁護士業務に携わった後、9年前より現職。マイクロネシア大統領、閣僚、また銀行局・保険局・登記局などの行政機関に法律相談を行っている。条約・契約交渉、また天然資源に関する法律を専門としている。政治学士・法学士。		

	Jesse Giltamag ジェシー ギルタマグ	マイクロネシア連邦保険局 局長
マイクロネシア連邦政府の下、研究開発省、通商貿易省などを経て、マイクロネシア連邦銀行保険部門役員、保険検査官を務めた後、現職。		

	川崎 和彦 Kazuhiro Kawasaki	双日インシュアランス株式会社 代表取締役社長
1955年生まれ、神戸大学経営学部卒業。78年、ニチメン株式会社入社(現：双日株)。以来、化学品合成樹脂ビジネスに従事。米国駐在を経て、2006年執行役員、2007年に双日香港社長、2008年に中国総代表を歴任。2011年に常務執行役員就任、2013年より現職。		

	田嶋 英治 Eiji Tajima, ARE,	マーシュ ブローカー ジャパン株式会社 シニア バイス プレジデント リスク ファイナンス アドバイザリー プラクティス リーダー
キャプティブ・スペシャリストとして15年以上のキャリアを有する。リスク確率モデルを駆使した事業予測、キャプティブ設立・運営支援、ポートフォリオ改善など、キャプティブ・ソリューションズのアドバイザー業務に携わっている。また、リスク保有最適化など、より汎用的なグローバル・アナリティクスのアドバイザー業務も担当している。前職時代には米国に5年間駐在し、現地損害保険会社の特約再保険のアンダーライティング、子会社の運用資産管理の経験を有する。中央大学法学部法律学科卒業、米国The College of Insurance, Diploma of Risk and Insurance 終了。		

	鈴木 由佳 Yuka Suzuki	エーオンジャパン株式会社 スペシャリティ部 賠償責任スペシャリスト
--	-----------------------------	--------------------------------------

	鈴木 由佳 Yuka Suzuki	エーオンジャパン株式会社 スペシャリティ部 賠償責任スペシャリスト
2000年エーオンジャパン入社。2010年より現職にて主に日系企業の国内外保険プログラムの統合や改善に関わるプロジェクトに数多く参画。サイバー保険やD&O保険等のフィナンシャルラインを含む各種賠償責任保険手配を担当。日本女子大学大学院文学部修士課程修了。損害保険募集人資格及び損害保険仲立人資格保有。ARM(米国資格Associate of Risk Management)保有。		

	小柳 勝美 Rocky Katsumi Koyanagi	エーオンジャパン株式会社 スペシャリティ部 サイバースペシャリスト
米国ニューヨーク州所在の日系IT企業等において23年間勤務後、2017年エーオンジャパン入社。米国では主に、金融、メーカー、商社等に対してサイバーセキュリティとICTのコンサルティングや各種ソリューションの提供を行っていた。顧客ニーズのヒアリングから提案、デリバリー、ポストセールスも含め信頼されるアドバイザーとしてオペレーションの効率化、及び成熟度の高いリスク管理のためのサポートを行う。ウェストバージニア大学、レンセラー工科大学院卒業。CISSP(Certified in Information Systems Security Professional)、CISM(公認情報セキュリティマネージャ)、及びCRISC(Certified in Risk and Information Systems Control)保有。		

	Steven Fan スティーヴン ファン	A.M. Best Asia-Pacific Ltd. 東アジア地区 市場開発ディレクター
スティーヴンは現在A.M.Bestの東アジアマーケットデベロプメントの責任者であり、東アジアの保険・再保険・キャプティブ・相互保険のレーティング業務を行っている。過去13年間保険業務に携わっており、中国の保険業界に精通している。西南財経大学修士卒。		

	水上 恵理 Eri Mizukami	株式会社TAX LABO 公認会計士・税理士・米国公認会計士
大阪大学法学部卒業。監査法人トーマツにて監査、および税理士法人トーマツにてインバウンドおよびアウトバウンドの税務に携わった後、シュルンベルジェ株式会社(フランス系油田サービス会社日本人)にてタックス・マネージャーとして勤務。その後KPMG税理士法人およびEY税理士法人にて日系多国籍企業向け国際税務アドバイスに従事。2011年に独立開業し、監査および税務業務を行っている。		

	佐藤 昭治 Shoji Sato	元駐マイクロネシア連邦 日本国大使
2008～2011年、駐マイクロネシア連邦日本国大使(兼、パラオ共和国、マーシャル諸島共和国)。2011年外務省退官後、MRA顧問を務め現在に至る。現在、一般財団法人国際協力推進協会常務理事、上智大学客員教授として、太平洋島嶼国と日本との交流、とくにマイクロネシア連邦と日本との若手リーダー交流、学生交流などに従事。		

Jun Bacalando ジュン バカランド	マイクロネシア連邦司法省 司法長官補佐
マイクロネシア連邦では、会社法の近代化を推し進めています。その目的は法人登記の手続き、特にキャプティブ保険会社の設立に関する手続きを簡素化、簡略化することです。現在、手続きは大変シンプルなものとなり、業界のニーズにも素早く対応できるようになっています。このような法律の抜本的な見直しは、マイクロネシア連邦がビジネス・フレンドリーな制度を整えることを重要視している証拠ですが、それは単に法令順守で現代のスタンダードに沿ったものであるというだけでなく、よりいっそう透明性を高め、責任あるコーポレート・ガバナンスを促進することにもつながると考えているのです。マイクロネシア連邦は、当業界との連携を強め、全面的な協力関係を築くための模索を続けていきます。	

Jesse Giltamag ジェシー ギルタマグ	マイクロネシア連邦保険局 局長
マイクロネシア連邦保険局の局長が、マイクロネシア連邦キャプティブドミサイルの最新情報についてお話しします。 The Insurance Commissioner will provide a brief update and overview of the FSM captive domicile.	

川崎 和彦 Kazuhiro Kawasaki	双日インシュアランス株式会社 代表取締役社長
FSMキャプティブ保険会社設立経験談 当社は、総合商社/双日株式会社の保険代理店として、多種多様な保険を取り扱っているが、特に貨物海上保険は取扱量も多く、リスクヘッジの手段として重要な商社機能の一つとなっている。この貨物海上保険においてグループ内保有と再々保険を組み合わせたリスクマネジメント機能とグループ内収益の両立を図るため、90年代中頃にシンガポールにおいてキャプティブを設立した。 その後の事業環境の変化に合わせて、より自由度の高いドミサイルであるマイクロネシア連邦への移転を検討し、2015年9月にライセンスを取得、同年10月よりシンガポール事業を停止すると同時にマイクロネシアでの再保険の引受を開始した。講演では、ドミサイル変更の際の検証点やその経験、現在のマネジメント状況、今後の展望について概説します。	

田嶋 英治 Eiji Tajima, ARE,	マーシュ ブローカー ジャパン株式会社 シニア バイス プレジデント リスク ファイナンス アドバイザリー プラクティス リーダー
I.どのような保険リスクがキャプティブに向くか Suitable Risks for Captives Japanese 巨大損害リスクとキャプティブは相性が良くないと言われますが本当でしょうか？自家保険キャプティブにおいて引受対象とすべき保険リスクを概説します(15分)。 Is it true that catastrophic risks are not suited for a captive insurance? I explain what types of insurable risks are to be considered for a self-insurance captive arrangement (15 minutes).	

鈴木 由佳・小柳 勝美 Yuka Suzuki・Rocky Katsumi Koyanagi	エーオンジャパン株式会社 スペシャリティ部
2.意思決定のためのデータアナリティクス Captive Risk Analytics for Your Decision Making キャプティブの最適ナリスク保有額はいくらか、自社の最適な保険金額はいくらかを判断するのに有効な、データアナリティクスという手法を概説します(15分)。 In order to decide optimized limit of liability for a captive, or a corporate insurance program, I introduce a concept of data analytics (15 minutes).	

Steven Fan スティーヴン ファン	A.M. Best Asia-Pacific Ltd. 東アジア地区 市場開発ディレクター
サイバーリスクマネジメントとサイバー保険 エーオンが実施した「2017年グローバルリスクマネジメント調査」レポートから、グローバル企業がどのようにサイバーリスクを捉えそれに対処しているか、およびサイバー保険購入の実態やキャプティブの活用状況をご紹介します。また、2020年の東京五輪に向けて益々高まるサイバーリスクに対し、日本企業はどのようなリスクマネジメントを行うべきかという観点から、サイバー・レジリエンス(サイバー侵害への耐性・侵害からの回復力)の強化方法についても概説します。	

Steven Fan スティーヴン ファン	A.M. Best Asia-Pacific Ltd. 東アジア地区 市場開発ディレクター
日本におけるキャプティブの格付けの現状にも触れながら、A.M.Best社のユニークなキャプティブ格付け方法について、ご紹介します。 Steven will introduce A.M.Best and its methodology, its unique strength of rating a captive. He will also talk about the captives rated in Japan.	

水上 恵理 Eri Mizukami	株式会社TAX LABO 公認会計士・税理士・米国公認会計士
平成29年度税制改正の解説 平成29年度税制改正では、タックスヘイブン対策税制(外国子会社合算税制)が大幅に改正されました。今回のセミナーでは、その改正点のうち、マイクロネシア連邦の日系キャプティブ子会社に影響がある点についてお話しします。	